

遊び心と自由な発想を活かして商品開発に取り組む

株式会社 墨運堂 ぼくうんどう 奈良県奈良市

1300年以上の歴史と伝統を持つ奈良の墨作り。しかし近年、少子高齢化や教育現場での書道離れなどにより書道人口が大きく減少しており、従来が発想にとらわれない新しい取り組みが必要となってきている。

そうした中、文化2年（1805年）創業の墨・書道用品老舗メーカーである株式会社墨運堂では、指先にはめて使うまったく新しいタイプの筆「Pop Corn（ポップコーン）ゆび筆」を開発、本年4月の発売以降テレビ・新聞などで大きく取り上げられ注目を集めている。



「Pop Corn ゆび筆」
大・中・小の3タイプがある（左）

2本の筆を同時に使い微妙な色調をブレンド（下）



従来の筆のように指で持つのではなく指先にはめて使うというこの「ゆび筆」は、結露したガラスに子供が指で絵を描くように、自由自在に直感的に筆を動かせることが特長。複数の手指や足指にはめたり、異なる色調のゆび筆を同時に使って色をブレンドしたりと、発想次第で様々な使い方ができる。

また、障害のために筆を持たない人や、握力の弱いお年寄りでも比較的スムーズに使うことができ、従来の筆の枠組みを超えた多様なユーザー層から好評を得ている。

発売後1か月間で約6千個を売り上げた同商品

は、県内のデザイン会社や教育工学専攻の大学教授らの協力を得て約3年の試行錯誤のすえ商品化に成功した。平成20年度に経済産業省の地域資源活用新事業展開支援事業の認定を受けており、その発想の独自性に対する評価も高い。また、指に装着するホルダー部分の構造は特許出願中とのこと。

「新たな発想を形にできたのは、周りに応援団がたくさんいたから」と語る専務の松井孝成氏は、「遊び」を重視した自由な発想をもとに、自分のアンテナにひっかかった「楽しい・面白いもの」のアイデアをとりあえず試作、それを周囲の人々とのネットワークの中で改良していくことで商品開発に結び付けているという。

ゆび筆に顔彩^{がんさい}、墨液、さらに専用筆スタンドをセットしてピザの宅配箱に納めた「Pizza Box」などの遊び心に溢れた商品展開も、そうした自由な発想の産物であろう。

歴史の長い伝統業界の中にあって、好奇心と遊び心をベースにした進取の姿勢をもとに新ビジネスのアイデアを生み出していく同社の取り組みに注目したい。

（吉村 謙一）



同時に考案した「専用筆スタンド」（上）

関連商品を詰め合わせた「Pizza Box」（左）

株式会社 墨運堂

〒630-8043 奈良県奈良市六条1丁目5-35
TEL：0742-43-0600（代） FAX：0742-45-6083
URL：http://www.boku-undo.co.jp